

2025 年度 核融合科学研究所 ITER インターンシップ参加支援
実施報告書

2025ITER インターンシップ			
参加支援助受給者	所属機関： [REDACTED]	学部学科等名・ 学年： 法学部国際公共政 策学科・4年	氏名： 今道 尊人
参加支援助受給者 連絡先	電話： [REDACTED]	E-mail： [REDACTED]	
研修期間 (事業支援期間)	2025 年 7 月 15 日 ～ 2025 年 10 月 14 日 (91 日間) (2025 年 7 月 15 日 ～ 2025 年 10 月 14 日 (91 日間))		
研修トピック	Audio, Video and Graphic Design	カテゴリー	B
得られた成果等 (行数は適宜増や してください)	<p>1. 本インターンシップでの研修内容 組織内外の広報活動・コミュニケーション施策にかかる印刷物およびデジタル媒体のグラフィックデザインの作成を行った。また、見学者や訪問者の対応にも関わった。</p> <p>2. 本インターンシップによって得られた成果のうち特筆すべき事項 国際機関内でのコミュニケーション施策について、実務経験を通し、実感を持った理解と新たな視点を獲得した。また、グラフィックデザインの製作技術を実務レベルに向上させることができた。核融合技術について現物を見、従事する人々と交流をすることで、国際的科学技術プロジェクトの進行プロセスについて理解することができた。</p> <p>3. 自分自身の今後の研究等への効果や核融合コミュニティ拡張への活用等について 国内の核融合プロジェクトの実施を含め、公的科学技术プロジェクトの推進への意欲関心が増加し、実際に技能的にもその貢献への足掛かりとなる経験を得られたと考える。またクリエイティブ面でのスキルも向上し、自分自身の将来選択に寄与すると確信を持っている。</p> <p>4. 研修先研究者 (グループ) の熱意, 態度, 研究レベル等に関して参考となる事項 広報部局の同僚の経歴は多種多様かつ、各自高度の専門的な知識や経験をもって取り組んでいた。20 名弱の部局で人員が豊富とは言えなかったが、そのために各自が熱意をもって協力しあって業務を実行する、良い雰囲気職場環境であった。他のインターン生のほとんどは科学・技術系の職種であったが、みな誇りをもって自身の研究課題に取り組んでいたように感じた。</p> <p>5. 日常生活の様子やその他の感想等 滞在先の Aix-en-Provence は晴れやかで賑わいのある、南仏らしい美しい街であり、日々の生活も自然と気持ち上がりながら生活できていた。ただし円安もあり物価は高く、贅沢な生活というわけではなかった。終業後などには他のインターンシップ生との交流もあった。また、ITER 機構や JADA の日本人職員の皆様に大変優しくしていただき、インターンシップ内外で様々な経験をすることができた。</p>		

※ 次頁に続きます。

	<p>6. この支援の改善すべき点において参考となる事項</p> <p>支援をいただいたことで、インターンシップを含めて日々の生活の質が有意に向上し、また日常での活動範囲が広がり、文化的で有意義な生活を送ることができた。心から感謝している。</p> <p>ただ、支援採択可否の審査について、基準が不明であり、また採択通知時期が不明であったため、採択通知が届く前は不安を感じていた。</p>
備考	